

## 国内電信級陸上特殊無線技士試験問題

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入(マーク)すること。

法 規 12問 30分

### 法 規 ( 1 )

- [1] 次の記述は、電波法の目的に関する規定である。  
□ 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。
- 「この法律は、電波の公平かつ □ な利用を確保することによって、公共の福祉を増進することを目的とする。」
1. 能率的
  2. 合理的
  3. 有効
  4. 適正
- [2] 無線従事者がその免許を取り消された場合、無線従事者の免許が与えられないことがあるのは、取消しの日からどれほどの期間か、正しいものを次のうちから選べ。
1. 1年
  2. 2年
  3. 3年
  4. 5年
- [3] 無線従事者が電波法若しくは電波法に基づく命令又はこれらに基づく処分の規定に違反したとき、総務大臣から受けることがある処分は、次のどれか。
1. 1年間の無線局の運用停止
  2. 3箇月間の無線設備の操作範囲の制限
  3. 無線従事者の免許の取消し
  4. 6箇月間の業務の従事停止
- [4] 免許人が電波法、放送法若しくはこれらの法律に基づく命令又はこれらに基づく処分に違反したとき、電波法の規定により、総務大臣が当該無線局に対して行うことがある処分は、次のどれか。
1. 3箇月以内の期間を定めた通信の相手方の制限
  2. 6箇月以内の期間を定めた電波の型式の制限
  3. 6箇月以内の期間を定めた無線従事者の業務の従事停止
  4. 3箇月以内の期間を定めた運用の停止
- [5] 固定局の無線業務日誌に記載する時刻は、次のどれによらなければならないか。
1. 中央標準時
  2. 協定世界時
  3. 協定世界時。ただし、これによることが不便である場合は、中央標準時
  4. 中央標準時又は協定世界時
- [6] 無線業務日誌の保存期間は、使用を終わった日から何年間か、正しいものを次のうちから選べ。
1. 1年間
  2. 2年間
  3. 3年間
  4. 5年間

# 国内電信級陸上特殊無線技士試験問題

## 法 規 ( 2 )

〔7〕 次の記述は、秘密の保護について述べたものである。電波法の規定に照らし、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、 に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」

1. すべての相手方
2. すべての無線局
3. 不特定の相手方
4. 特定の相手方

〔8〕 無線電信通信において、相手局に対し通報の反復を求めようとするときは、次のどれによることになっているか。

1. 反復する箇所を繰り返し送信する。
2. 反復する箇所の次に「R P T」を送信する。
3. 「R P T」を送信する。
4. 「R P T」の次に反復する箇所を示す。

〔9〕 非常の場合の無線通信において、無線電信により連絡を設定するための呼出しは、次のどれによって行うことになっているか。

1. 呼出事項の次に「OSO」3回を送信する。
2. 呼出事項の次に「OSO」2回を送信する。
3. 呼出事項に「OSO」3回を前置する。
4. 呼出事項に「OSO」1回を前置する。

〔10〕 無線電信通信において、「ラタ」を使用する場合は、次のどれか。

1. 通報のないことを通知しようとするとき。
2. 周波数の変更を完了したとき。
3. 通報の送信が終わるとき。
4. 通信が終了したとき。

〔11〕 無線通信の原則として無線局運用規則に規定されているのは、次のどれか。

1. 無線通信は、有線通信を利用することができないときに限り行うものとする。
2. 無線通信は、正確に行うものとし、通信上の誤りを知ったときは、直ちに訂正しなければならない。
3. 無線通信を行う場合においては、略符号以外の用語を使用してはならない。
4. 無線通信は、長時間継続して行ってはならない。

〔12〕 無線局は、自局の呼出しが他の既に行われている通信に混信を与える旨の通知を受けたときは、次のどれによらなければならないか。

1. 直ちにその呼出しを中止する。
2. 中止の要求があるまで呼出しを反復する。
3. 空中線電力をなるべく小さくして注意しながら呼出しを行う。
4. 混信の度合いが強いときに限り、直ちにその呼出しを中止する。